



Mini-WAN

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.191)



2023年7月号

三河港湾事務所だより

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 豊橋みなとフェスティバル ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

7月17日(月)に「豊橋みなとフェスティバル」が開催され、三河港湾事務所もブースを出展しました。

このイベントは例年「海の日」に開催されており、子どもから大人まで幅広い世代の方に港に親んでもらうとともに港の重要性や役割、港湾への理解を深めてもらうことを目的としています。

当日は炎天下の中での開催となりましたが、多くの方にご来場いただき大盛況でした。

イベント会場には、三河港湾事務所や周辺企業などのブースが並んでおり、それぞれの魅力を発信していました。三河港湾事務所のブースでは、津波や液状化について模型での説明、ドローンを利用した三河港紹介映像の放映、パネルによる三河港の紹介を行いました。また、三河港を題材にしたクイズラリーも実施しました。クイズラリーに参加した方には三河港を題材にした「三河港eyeQカルタ」を配布しました。ご参加ありがとうございました。

ブース以外にも中部地方整備局名古屋港湾事務所が所有している全長100mを超える浚渫兼油回収船「清龍丸」や海上保安庁巡視船「いすず」の一般公開や遊覧船「たつみ」による三河港クルーズ、三河港モーターショー、ポートバスツアーなど多くの催し物が行われました。



オープニングイベントの様子



ブースの様子

浚渫兼油回収船「清龍丸(せいりゅうまる)」ってどんな船?

「清龍丸」とは、3つの役割を担っている船です。

1つ目は「浚渫(しゅんせつ)」です。航路や泊地等の水深を維持するために、土砂の掘削を行う作業のことを浚渫といいます。普段は名古屋港内の浚渫を行っています。

2つ目は「油回収」です。大量の油が海に流出したときは速やかに現場に向かい、海洋環境を維持するために油の回収を行います。清龍丸のような大型油回収船は国内に3隻あり、全国の油流出事故に対応できるように配備されています。

3つ目は「災害対応」です。災害発生時には迅速な災害復旧を図るための防災作業(的確な災害情報収集作業)が可能となっており、ヘリコプターデッキや望遠カメラなど災害支援に必要な機能を有しています。また、緊急支援物資の海上運搬などの救援活動を行います。熊本地震や西日本豪雨等では食料や生活用品などの支援物資を海上輸送し、船内浴室を解放して入浴支援を行いました。



浚渫兼油回収船「清龍丸」

三河港湾事務所ホームページ <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>
三河港湾事務所公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>



みかわこうわん

三河港湾

検索



国土交通省 中部地方整備局
三河港湾事務所

公式Facebookページ



☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆ 工事紹介 ケーソン据え付け工事 🧑‍🏭 ☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆

船舶の着岸時や荷役時における波の影響を小さくするために、岸壁の沖に防波堤を築造する工事を進めています。波の影響を小さくすることで、船舶が揺れにくくなり、荷役作業を安全かつ効率よく行えるようになります。また、防波堤は環境に配慮した形状に設計されており、環境への影響がないことを確認するために環境調査を継続的に行っています。

神野地区の防波堤は、ケーソンと呼ばれるコンクリートの箱を、石材で整えたマウンドに並べて整備しています。平成30年度からケーソン製作や海底の改良といった整備を続け、これまでに24函（かん）のケーソンを据え付けました。

今年度はケーソン10函の据え付けを行います。6月～7月中旬にかけてマウンド（基礎）形成を実施しました。7月中旬からはケーソンを起重機船で吊り上げ、マウンドに据え付ける作業を行っています。8月上旬からは、据え付けたケーソンをより安定させるために、ケーソン周囲に石材やブロックを設置していきます。

ケーソン10函の据え付けにかかる一連の作業は9月末完了を予定しています。10月からは次年度以降に据え付けるケーソン2函の製作を行う予定です。



工事の施工場所



ケーソン据付の様子



製作したケーソン

☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆ ドローン訓練 ☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆

本年度も、三河港湾事務所ではドローン訓練を行っています。

津波や地震などの災害時は迅速に被害の状況を把握するため、ドローンを活用した現場の状況調査が行われます。ドローンを利用することで、人が足で現場を確認しに行くよりも早く被害状況を確認できるようになるだけでなく、人が入っていけないような場所の被害状況を確認することもできます。実際に静岡県熱海市で起こった大規模な土石流の災害では、被害状況を把握するためにドローンが利用されました。

自然災害に備えドローンを活用できるように、三河港湾事務所でも定期的にドローンの飛行訓練を行っています。

また、ドローンを飛ばすためには様々なルールがあります。ドローンを飛行させるためのルールをあわせて学ぶことで、有事の際にも迅速で適切な対応ができるように努めています。



訓練の様子



飛行中のドローン

海とみなとの相談窓口

全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※ 9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)
※一部の地域を除きます。

国土交通省
中部地方整備局



三河港湾事務所
〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL 0532-32-3251

衣浦港事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL 0569-21-2311

<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>